

 女性医師の窓

マッサージ業界

石川県立中央病院
外科・乳腺内分泌外科 金子 真美

数年前、足つぼマッサージにはまっていた時期がある。諸先生方の中にも疲れた時にマッサージを受けられる方がいらっしゃるのではないだろうか。

恥ずかしながら、マッサージに国家資格が必要なことを数年前まで知らなかった。ご存じの方にとっては当たり前のことだろうが、はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師(略して鍼灸マッサージ師)といい、学校に3年通って、解剖学、生理学なども学んだ上でマッサージを行っているそうだ。だが、巷には、マッサージを謳っていても無資格のものも多いらしい。いかがわしいのは置いておくとして、リフレクソロジーとかクイックマッサージとか、カイロプラクティックとか整体とかいろいろ名前を変えていることが多いようだ。受けていた足つぼが有資格者だったのかどうかは知らない。誰にマッサージしてもらっても気持ちいいは気持ちいいのだが、解剖の知識もない人間にバキバキッとかがやられていたかと思うとちょっと怖い。ちなみにこれもお存じかと思うが、接骨院は柔道整復師の国家資格だが、整体師の国家資格はない。カイロプラクティックの本場であるアメリカには国家資格があって、中にはちゃんと勉強してそういう資格を持った人もいるが区別をつけるのは難しいようだ。

ややこしいことに、有資格マッサージ師の中にも理論的に治療を行うまともな人から西洋医学に敵対心を抱く人、神がかり的な方向へ走ってしまった人までいろいろいるらしい。医師の中にもたまにオマジナイ的な治療に走っていく人がいるが、マッサージ師の中のトンデモ割合は高いようだ。さらに、モラルの低い人も結構いて、保険の不正請求をしたり、高齢者の家に片っ端から電話して往診マッサージの勧誘を行ったりする業者もいるとか。訪問マッサージの保険適用は「脳梗塞後遺症、脊髄損傷後遺症、廃用症候群、難病、身体障害などによる、慢性的な麻痺・拘縮・疼痛・歩行困難・運動機能障害」で、「通院が困難」であることに限られるのだが、マッサージの保険単価は安いのでこういう往診マッサージ業者は往診料目当てで書類の代行手続きまでやって、医師に「通所して治療を受けることが困難である」ことの証明書を出してくれとってくるので迷惑を被った方もいらっしゃるかと思われる。

さて、なぜこんなマッサージ業界のことを書いているかということ、夫がいつも愚痴るからである。本人も周りも結婚はできないかも、と思っていたのだが、縁あって結婚することができたのがマッサージ師である夫である。夫は身内である分を割り引いても、ちゃんと勉強し続けているまともな鍼灸マッサージ師に分類されると思うが、こういう下品な奴らがいるからいつまでたってもマッサージ師の地位が向上しない、と嘆いている。欧米では治療の一環として地位も確立されているのに・・・云々。仕事が終わって家でそんな愚痴をかかされても・・・と日々思うのだが、妊娠中の腰痛も、陣痛も夫のおかげで乗り切れたし、今も夫が家事や育児を手伝ってくれているのおかげで仕事ができているようなものなので文句は言えない。

最後はのろけ話になってしまったが、マッサージ師の問題はマッサージ師内で解決してもらおうとして、とりあえず患者さんに不利益がないようにだけ気をつけていきたいと思う。